

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372202024		
法人名	株式会社オフィスシンセリティ		
事業所名	グループホームやまと桜館		
所在地	愛知県一宮市大和町南高井字江北8番地		
自己評価作成日	平成29年11月13日	評価結果市町村受理日	平成30年 4月 9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JizyosyoCd=2372202024-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JizyosyoCd=2372202024-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成29年12月13日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者、職員共に『一日一笑』をモットーに、その人らしく生活できるように心掛けて支援し、季節などを感じる事が出来るように行事や外出支援を行っています。  
 生活の空間でも季節を感じる事が出来るように工夫しながら、フロア内の飾り付けをしています。また、ご家族が気軽に面会に来て頂くことができる環境作りを心掛けています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの周囲は田んぼに囲まれた2つの地区の境界であり、近隣を歩く住人も見当たらない。しかし、開設から12年、地道に積み重ねた地域交流は、確かな手ごたえがある。運営推進会議には2つの地域の会長・民生委員が参加して活発な意見、提案が出されている。地域の防災協力を得ており、今年度、台風の局地的な水害を受け、床上浸水になったが民生委員がすぐに駆け付けた。会議では今後の水害について検討され、水害が予想される時は、地域から土嚢を積みに来ることになった。  
 交流は子供会、地域ソフトボールの人たち等、多岐にわたり、ホームは地域に認知されている。今年度、地域の「ふれあいサロン」への参加が始まり、利用者の楽しみになった。法人合同の夏祭りには、地域から500名程が参加し、共に暮らす地域住人の一員として受け入れられている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「礼節と尊厳」の運営理念のもと、職員全員が「生涯家族」であるという思いを持ち、家庭的な生活の場を提供し、利用者本位のサービスに努めている。	理念「生涯家族」は職員に浸透し、日々実践している。毎年理念を展開したチーム目標、個人目標を設定し、目標達成に向けて取り組んでいる。家族も認めるアットホームな雰囲気があり、あちこちで笑顔に出会った。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	家族を通じてのアピールや運営推進会議などで施設に気軽に立ち寄って頂きたい旨を伝えている。	運営推進会議には隣接する2つの町内会長・民生委員が出席している。子供会やボランティアの受け入れ、法人の祭りでは地域からテントを借り、駐車場の案内役も地域住人が担当する等、双方向の交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年開催している夏祭りは、地域の方にも楽しみにされており、地域の方と利用者や事業所の交流の場となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で、利用者の日常をプロジェクトを用いて報告し、意見をもとに地域への周知・サービスの向上に努めている。	運営推進会議にはスライドを上映し、利用者の普段の様子が分かるようにしている。水害で床上浸水になったことから、地域から水害が予想される時の対応について活発な意見・提案がある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者には、運営推進会議の中で制度の説明や相談など依頼し、助言を頂いている。	市への届け出や報告は、法人が窓口となっている。運営推進会議へは市・介護保険課と地域包括支援センター職員が参加しており、ホームの状況は市の窓口伝わっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないよう、見守りや声掛けを強化している。緊急やむを得ず実施する場合の確認手続き等は社内で研修を行っている。	管理者・職員は身体拘束による弊害を理解しており、玄関、エレベーター等に施錠はない。言葉遣いについても常に優しい口調で接する等、拘束に繋がらないよう取り組んでいる。利用者が外に出て行く時は、職員は傍について見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	具体的にどのような事が虐待になるのかを確認し、虐待防止を意識付け、各自が防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の中に、保佐人が付いている方があり、協力しながら支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧な説明を行い、個々の立場に立って解りやすく説明している。また、後日発生した疑問や問題点などの問い合わせにもその都度対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、不満、苦情を引き出せるように利用者との関わり方に配慮し家族との会話の中での思いをミーティング等で話し合い対応している。また、申し送りノート等活用し職員が周知している。	地域からの入居者が多く、家族の面会も多い。来訪時に担当者以外でも近況が報告でき、管理者に直接意見、要望を伝えている。家族から「安心してお願いできる」「職員の対応も非常に良い」等、好評を得ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度、職員ミーティングを行っている。その他統括本部と管理者とのミーティングがあり、意見交換の場を設けている。年に2回職員の個人面談を行っている。	新管理者は、いつでも職員の提案を聞くようにしている。職員から、「『シフトを変わって欲しい』と相談すると考えてくれ、要望が言い易い環境である」と聞くことが出来、人間関係も良好である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を行い、各自が向上心を持って働けるように職場環境の改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1度の安全衛生委員会の開催、感染対策等の勉強会や外部研修の参加の働きかけなど、知識の向上、職員間での情報の共有に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ企業内の事業所との交流や協力のもと、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時、本人の生活歴、好み等を出来るだけ聞いて個々のコミュニケーションをとっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の希望・悩みを聞き、家族の要望に沿った対応を心掛けている。担当に限らず、職員全員が利用者の状態を周知し、対応できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	協力医療機関を含む多職種と連携し、本人や家族が納得できるような対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として敬意を表しながら、お互いが大切な『家族』になれるよう自分らしく楽しく過ごして頂けるよう努めている。掃除・洗濯物のたたみ等、本人にも出来る事、やりがいのある事を一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話等で利用者の生活を共に支援していく関係を保つよう努めている。また、お便り等で利用者の状況を報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	通っていた喫茶店へ行ったり、家族にも声を掛けるなどして、馴染みの絆が途切れないよう努めている。入所前に教会へ通われていた利用者があり、本人の意思を尊重し、週1回の集まりに送りだしている。	仕事仲間や遠縁が訪ねて来る。毎週福祉タクシーを利用して宗教関係の集会に出掛ける利用者や、家族と墓参りや美容院等の馴染みの場所に出かける利用者がある。電話の取次ぎ等、関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の主体性を大切にして利用者間の意思疎通を図り、互いが良好な関係でいられるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ連絡し、相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしく暮らして頂けるよう支援をし、一人ひとりの思いや希望に沿えるよう『気づき』を見つけたらケース記録に記入し職員全員で共有するよう努めている。	喋らない利用者の思いは、目を閉じる、目を開ける等の些細な表情を見逃さず、汲み取るようにしている。気づいたことはケース記録に記録して、情報共有をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から、利用者の生活歴・趣味・入所の経緯などを伺いながら、本人の話聞き情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の申し送りや、カンファレンスで話し合い職員同士の情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その人らしく暮らし続けられるための介護計画を作成し『生きがい』や『楽しみ』が反映されるように努めている。生活の中での変化や家族の要望を取り入れ随時修正対応できるように努めている。	居室担当者が家族の意向や思いを聴き取り、計画作成担当者と共有して計画書を作成しており、「その人らしさ」の出た介護計画になっている。介護計画には、毎月強化目標を設定して取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録や情報は共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者・家族の状況に応じて必要な支援を柔軟に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会や子供会の協力により、地域の祭りへの参加や、子供たちとふれあう機会を設けている。また、ボランティアによる音楽会等を実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の意向を得ながら、主に協力医療機関をかかりつけ医として利用している。	協力医の月2回の往診がある。かかりつけ医の受診は原則家族対応が基本であるが、家族の事情を勘案して臨機応変に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの契約により、医療連携体制の下で、看護師の訪問時に相談やアドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院による心身のダメージ、ストレスや負担を軽減するために、家族と相談しながら、医療関係者との話し合いの場を設けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時や重度化する前に、本人や家族と話し合い意向を確認している。重度化した場合や重い病気であることがわかった時など、本人・家族・職員・医師等と相談しながら方針を共有している。	今年度1名の看取りを経験した。状況変化による家族不安を、繰り返し話し合いを持つことでホームでの終末期を過ごすことができた。家族は、住み慣れたホームで最期を迎えられたことに触れ、「ここで良かった」との言葉を発している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを確認し、ミーティングなどで話し合っている。対応方法に関しては個々に違う為、その方に合った対応の仕方を確認できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練と消防設備点検を行っている。水害時の訓練を行っている。	年2回の避難訓練を実施している。地域との協力体制が構築され、避難後の見守りを地域にお願いしている。今年度、床上浸水になったことから、水害が予測される時は地域から土嚢積みに来てくれることになった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩である利用者へ丁寧な言葉遣いを用い、常に一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない声掛けや対応を心掛けている。	居室の入室時にはノックをし、「失礼します。」と言葉をかけている。呼称も「さん」付けを行い、利用者の尊厳を意識して取り組んでいる。「いいことは大きな声」、プライバシーは「小さな声」で支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるような声掛け、アプローチを大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムやその時に本人がしたいと思っている事を大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者、家族の希望に合わせて身なりの配慮をしている。理美容院の利用や化粧品の購入等も支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、下ごしらえや後片付けは一緒に行っている。本人の意思を尊重し、声掛けを行っている。	毎日の食材の買い物に出掛けている。利用者が力量・要望に合わせ、調理の一連の工程に参加している。利用者の食事形態にも配慮している。職員も同じテーブルにつき、食事時間が楽しみの場になっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を理解し、本人の能力を活かしながら行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握しトイレ誘導している。汚れた場合は羞恥心やプライバシーを損ねないよう速やかに対応している。	トイレでの排泄を基本としている。利用者に合わせて誘導の時間を職員間で共有し、リハビリパンツから布パンツに改善した。夜間はパッドを大型にして睡眠を十分とることにより、失禁が減った事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を活用し、一人ひとりのペースに合わせた運動をすすめ、身体を動かす働きかけに取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間はおおよそ決まっているが、一人ひとりのタイミングに合わせて入浴して頂いている。	毎日の入浴を楽しむ利用者もいるが、2日に1回の入浴機会がある。利用者の重度化に対応して2人での入浴介助、シャワー浴、足浴等の工夫もある。入浴剤や、季節を楽しむ柚子湯や菖蒲湯もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中においては、個々の状況に合わせ声掛け誘導し休んで頂いている。昼夜逆転にならぬよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の説明書を見て理解に努めている。飲み忘れや、誤薬を防ぐため、薬の袋に日付を書くなど、薬に対する意識を高めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの『昔取った杵柄』を把握し、日常的に活かしている。家事など得意分野や楽しみなど活用できる場面を見出すよう配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩に出掛けたり、食材料の買い出しに同行して頂く等支援している。お誕生会の外食や、その人の懐かしいお店へ行くなど、積極的に外出支援に努めている。	日課となっている散歩や、毎日の食材の買い出しに出掛けている。年3回の全員で出掛ける外出や個別外出、グループ外出等、積極的に施設外への外出を支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談し、日常の買い物をするくらいのお金を持って頂いている方や、自己管理することが難しい利用者は外出時のみ財布を持って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があった場合はプライバシーに配慮しながら、個別に支援している。毎年、家族への年賀状の作成等も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の掲示物を作成したり、花や緑を置き、色のある生活、季節感を楽しんでいる。	共有空間は利用者と職員と一緒に掃除をし、清潔な環境になっている。季節の作品や写真が飾られている。感染予防のために空気清浄機を増やし、健康管理にも配慮している。一角の畳スペースでは洗濯物を置く等、利用者が仕事をしやすい環境である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置くなど、くつろげるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具など本人と家族の希望に合わせている。	居室入り口には暖簾が掛けられ、馴染みの筆筒、遺影等が持ち込まれ、家族写真が温かさを醸し出している。職員手作りの壁一面の作品が利用者との関係を映し出しており、居心地良い居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ADLの状態に合わせて手すりを使ったり、杖を利用されるなど工夫している。		